

ロボットスーツ試験導入

県内介護施設30カ所に



神奈川県

神奈川県は12日、「一人の力のみで抱え上げない介護・看護を推進します」とする神奈川県らから介護宣言を発表するとともに、介護施設30カ所にロボットスーツHALの介護支援用（腰タイプ）の試験導入を始めた。介護宣言は、人による抱え上げ作業により職員が腰痛を引き起

こし、労働力の低下につながっていると問題視。管理者に抱え上げない理念を普及するとともに、ロボット・福祉機器の導入、保健医療福祉の専門職全般への技術普及などを進めるとした。

また、介護宣言を実現するために「ロボット等を活用した職場処遇改善コンサルティング支援事業」を開始。ヘルスケアロボットなどを活用した腰痛防止対策を進めることで介護・看護現場の離職率

の低減を目指す。

具体的には、約1億1900万円の手算を

エリア情報

各地の福祉現場の日常の出来事や活動を紹介していきます。投稿募集中。
toukou@fukushishimbun.co.jp

投入し、サイバーダイソン社が開発したHALを100台導入。90台は30カ所（1カ所当たり3台）の介護施設で来年3月まで試験的に使用する。10台は研修用として活用する。

同日、横浜市内の特別養護老人ホームで行われたHALの導入発表式に出席した黒岩祐治知事は「ロボットスーツはまだ発展途上。使い勝手を現場でいろいろと検討してもらい、いいものにしていきたい」と話した。